地域文化の創造拠点である図書館をもっと身近に！　2010.2.28 発行　第２号　隔月発行　FREE/無料

上田図書館倶楽部だより

とーく

ueda.zuku.jp

2010
3・4
月号

図書館振興財団助成事業として、
NPO 法人上田図書館倶楽部が発行しています。
ホームページアドレス
http://ueda.zuku.jp/

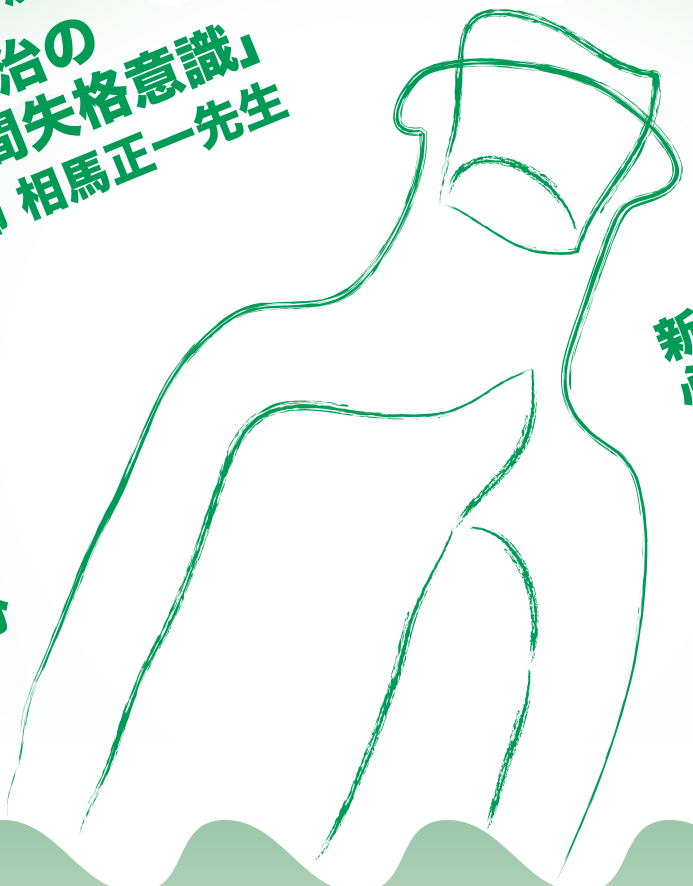
図書館の「と」と、倶楽部の「く」、それからコミュニケーションの基本である「話す」をかけて「とーく」という名前をつけました。

特集１
太宰治
生誕100周年
記念講演
「太宰治の
人間失格意識」
講師 相馬正一先生

特集２
サロントーク
真田幸光氏を
迎えて

新コーナー
心に残る
おすすめ
Books

イベント
カレンダー
３・４月分



生活の中の駅前図書館

上田情報ライブラリー
館長　大滝一郎

駅前図書館上田情報ライブラリーが誕生してから、今年の四月で満六歳になります。

上田駅前ビルパレオの四階にあり、平日は、夜の八時三〇分まで開館しておりますので、仕事や学校帰りの皆様にも御利用をいただいております。

「暮らしとビジネス支援」「千曲川地域文化の創造と発信」を基本の考え方として、生活の課題を解決する図書館を目指し、上田図書館倶楽部の皆様を始め、市民団体の皆様と一緒に様々な文化活動を進めてきております。

図書館では、通常の本の貸出やパソコンでの調べもののほか、新聞、経済関係、判例などのデータベースを御利用いただけるとともに、カウンターでは、職員が、様々な資料の調査や照会についても、ご相談を受け賜っております。

図書館には、暮らしや仕事に役立つ様々な情報がございます。

学生の皆様はもちろんのこと、学校教育を終了して社会人となった皆様、退職して第二の人生を歩み始めていらっしゃる皆様、様々な人生の転機を迎えていらっしゃる皆様に御利用をいただける地域の情報の拠点です。

多くの新聞や雑誌もございますのでお気軽にお越しください。

図書館振興財団助成事業

千曲川地域の文学講座

太宰治生誕一〇〇年記念講演「太宰治の人間失格意識」

講師　相馬正一氏（岐阜女子大名誉教授）

昨年十一月二十二日（日）に開催された講演には、生誕一〇〇年にふさわしく、定員をはるかに上回る七十五名の方が受講され、「相馬先生の愛する太宰治をたっぷり聞けて良かった」「また作品を読み返してみたいと思う」などの声が、多数寄せられました。

太宰治・略年譜

明治42年
　6月19日、青森県北津軽郡金木村に出生。生母たねが病弱のため、同居中の叔母きえに育てられる。2歳から7歳まで子守のタケに付く。

大正15・昭和元年　17歳
　青森中学校「校友会誌」や同人誌「蜃気楼」に精力的に創作を発表、芥川に心酔する。

昭和2年　18歳
　7月、芥川の自殺を知って衝撃を受ける。

昭和4年　20歳
　12月、二学期試験の始まる前夜、カルモチンを多量に嚥下し、いわゆる第1回自殺未遂事件を起こす。

昭和5年　21歳
　4月、東京帝大仏文科に入学。5月、先輩に勧誘されて共産党のシンパ活動に加わる一方、井伏鱒二を訪ね、以後永く師事する。銀座の女給田部シメ子と鎌倉七里ヶ浜海岸で薬物中毒を図り、女は絶命。自殺幇助罪に問われ、起訴猶予となる。

昭和8年　24歳
　同人誌「海豹」に「漁服記」「思い出」掲載する。

昭和10年　26歳
　3月、鎌倉山で縊死を図り、未遂に終わる。4月、急性盲腸炎の手術後、腹膜炎を併発し重態に陥る。入院中、患部鎮痛のためパビナールを射ち、漸次習慣化する。「道化の華」を発表。

昭和11年　27歳
　6月、砂子屋書房から第一創作集「晩年」刊行。
　10月、武蔵野病院にパビナール中毒の治療のため入院する。

昭和12年　28歳
　3月、妻初代の過失を知り、水上温泉で夫婦のカルモチン心中を図るが未遂に終わる。6月、初代と離別。
　「二十世紀旗手」「HUMAN LOST」など発表。

昭和14年　30歳
　1月、石原美知子と結婚する。「富嶽百景」「女生徒」など発表。

昭和19年　35歳
　5月12日から6月5日にかけて津軽地方を旅行する。
　「津軽」など発表。

昭和22年　38歳
　2月、下曽我に太田静子を訪ね、5日間滞在する。その直後から「斜陽」を起稿。「斜陽」「ヴィヨンの妻」など発表。

昭和23年　39歳
　6月13日、山崎富栄と玉川上水に入水、満39歳の誕生日にあたる6月19日早朝、屍体発見。死後「人間失格」「桜桃」など刊行。

講師の相馬正一先生は太宰と同郷の出身で、太宰研究をライフワークとされ、太宰関連の著書を何冊か上梓されています。（「若き日の太宰治」「評伝太宰治」「太宰治の原点」などのほか、本年四月に「太宰治と芥川龍之介」を刊行予定）　（現在、軽井沢町在住）

今回は太宰の人間失格意識を、幼少期の体験から掘り起こし、その後繰り返された自殺未遂と、その都度著された作品などから検証されました。

又、パビナール中毒で入院した折のカルテの表紙が資料として配られ、空襲で焼失したはずのカルテが近年奇跡的に発見されたことなど、貴重なお話を聴くことができました。

太宰にとっては周りの人間全てが作品の対象・素材になり、自己も又対象化して、だめな人間としての自分を書いたこと、そして建前でなく本音で生きる、自分を偽らない生き方が、現在でも若い人に支持され読まれている所以だろうとのことでした。

（千曲川地域の文学講座　チーフ　海野　郁）

なお相馬先生は、平成十七年から毎年、上田図書館倶楽部主催の文学講座の講師をされていて、六年目の二十二年度は「芥川龍之介の世界」が予定されています。三月六日（土）から上田情報ライブラリーのカウンターと電話にて受付を開始いたします。定員になり次第締切りますのでお早めにお願いします。

倶楽部員に聞く

農業時々図書館

伊藤　文子

なにやら楽しそうに話し合っているグループ。まじめな雰囲気も漂う五～六人の男性女性。コーヒーを飲みながら丸テーブルを囲んでいる。情報ライブラリー市民サロン。どんなグループだろう？

ひそかに観察すること数ヶ月。ますます興味を引かれ、二〇〇八年の春、定年を機にドアをたたいたのが上田図書館倶楽部でした。

一会員となって見る倶楽部は想像していた通りでした。図書館と二人三脚で行なう市民文化活動。図書館大好き人間にとって、魅力的なNPO法人でした。今まで経験したことのない新しい世界です。

還暦後は半農半X（エックス）で過ごしたい、そんな思いからX（エックス）を探していましたが、幸運にも上田図書館倶楽部というX（エックス）を見つけることができました。農業一本だけだったら出会えなかったであろう、いろいろなキャリアの持ち主と知り合うことができました。そして、様々なジャンルの話を聞くことができ、心地よい刺激を得ています。

図書館振興財団助成事業

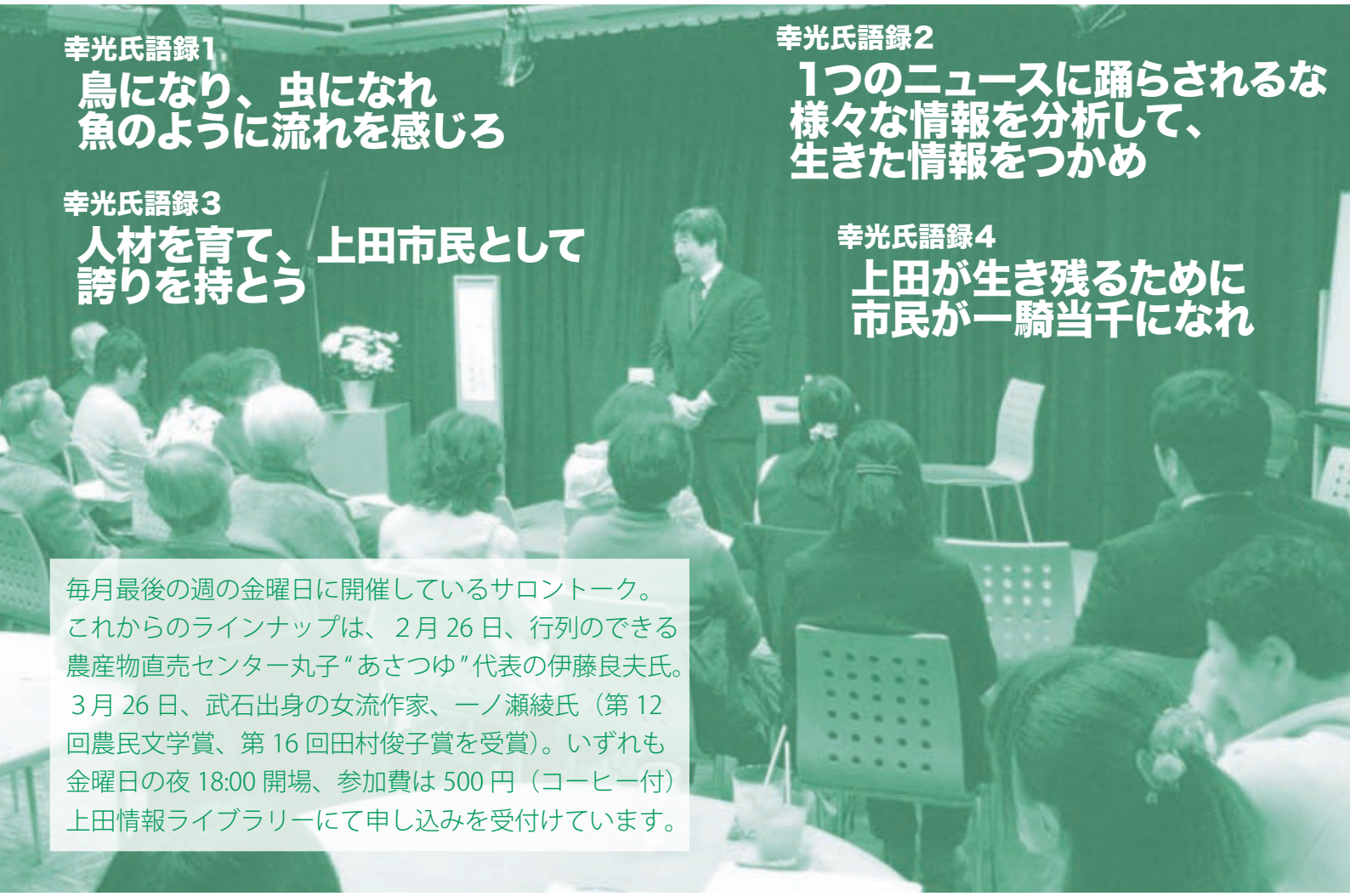
繭ホール　サロントーク Vol. 1

真田幸光氏を迎えて

ゲストは経済学者で愛知淑徳大学教授の真田幸光氏。幸光氏は松代藩真田氏の末裔で、米沢上杉文化財団の理事でもあります。

40名ほどの参加者で満席となった上田情報ライブラリーことばの繭ホールで、真田幸光氏のお話しは始まりました。真田家末裔ならではの話（祖母に礼儀作法をホテルに籠ってみっちり叩き込まれた）、野球（慶応大野球部でのエピソード、ライバルであった東海大の原選手（巨人監督）の印象）、政治（政治家になりたかったが家族に反対されて断念、しかし日本の力になりたい気持ちは変わらない）、経済、人材育成の話など、ユーモアを交えた巧みな話術で聴衆を引きつけ、会場は一体感に包まれました。

国を治めるため、アメリカがとった方法とこれから日本が進むべき方向を図解された。



幸光氏語録1
**鳥になり、虫になれ
魚のように流れを感じろ**

幸光氏語録2
**1つのニュースに踊らされるな
様々な情報を分析して、
生きた情報をつかめ**

幸光氏語録3
**人材を育て、上田市民として
誇りを持とう**

幸光氏語録4
**上田が生き残るために
市民が一騎当千になれ**

毎月最後の週の金曜日に開催しているサロントーク。これからのラインナップは、2月26日、行列のできる農産物直売センター丸子“あさつゆ”代表の伊藤良夫氏。3月26日、武石出身の女流作家、一ノ瀬綾氏（第12回農民文学賞、第16回田村俊子賞を受賞）。いずれも金曜日の夜18:00開場、参加費は500円（コーヒー付）上田情報ライブラリーにて申し込みを受付けています。

記録・草創期の上田図書館倶楽部

第二回
設立総会の様子・定期総会で五十万円の寄付

平成十六年一月二十日の東信ジャーナルは、その二日前一月十八日に開催された上田図書館倶楽部設立総会の様子を「上田図書館倶楽部が発足　県下初　住民と協働で文化・学習活動　代表に米津さん」という見出しで「設立総会は上田市立図書館に発起人や賛同者ら五十二人が参加して開いた。総会では西入幸代さんを議長に規約や会費、倶楽部代表など決めた」と報じている。規約は、「上田地域において市民と協働の図書館づくりを推進し、地域の文化向上に寄与する」とし、学習活動、文化事業、図書館ボランティア、図書館業務の一部受託、収益事業が掲げられ、業務の一部を市が委託する予算措置がとられたこと、喫茶店の営業が盛り込まれたことが特徴的であった。

その年三月二十八日に第一回の定期総会を開催した。総会に来賓として出席された母袋市長はNPO上田図書館倶楽部の活躍に期待して熱いエールを送る挨拶をされたし、上田高校「昭和九年会」からは活動費として五十万円が寄付されるなど、大きな盛り上がりの中で上田図書館倶楽部は船出した。

（彦）

上田図書館倶楽部だより「とーく」3・4月号　発行：NPO法人上田図書館倶楽部　編集：「とーく」編集部　住所：〒386−0025上田市天神一−八−一　電話／FAX：〇二六八−二五−三一一五

心に残るおすすめBooks

子どもが育つ魔法の言葉

ドロシー・ロー・ノルト

誰もが希望を持ち親になろうとし、そして自分は理解ある親になれると思っていると思います。しかし実際は、ガミガミ怒り、イライラし、そして可愛い寝顔を見ては自己嫌悪の繰り返しではないでしょうか。

この本は、日常当てはまる子供とのやり取りをこういう時はこうすれば良いという事を例を挙げて教えてくれます。

この本を読み終わった後は、子供との接し方が変わるはず。そして、自分も穏やかになり、子供を更に愛おしいと感じるはず。是非読んでみて下さい。

（上田市　R・Aさん）

夕映え

宇江佐真理

時代小説には珍しく女性の作家の作品であり、それだけでも興味をひかれた。江戸の本所に「福助」という、縄暖簾のいっぱい飲み屋があった。一家は女将、元武士で岡っ引きの亭主、職の定まらない息子と年子の妹。その一家と、一家を取り巻く常連客たちのつつましいが幸せな暮らしが、幕末という大きな変化に翻弄される。時代小説は、今の世の中につながる日本人の心、精神を映し出していると思う。

（上田市　Y・Mさん）

克己心

宇津井　健

ある雑誌に新刊書の紹介があり、図書館に問い合わせたところ、蔵書がなかったのでリクエストをして購入していただいた本です。

二〇〇八年に出版されたこの本は妻を亡くした七十七歳の健さんが高齢期の孤独をどう生きるか人生を振り返りながら語る初の自伝エッセイです。

・長寿の時代にあって、年齢を意識しないでエネルギーを発散させること
・命ある限り現役でいること
・目的意識を持って、自分を磨き自信を持って生きること

など、高齢期の生き方について参考になることがたくさん語られています。

（上田市　A・Nさん）

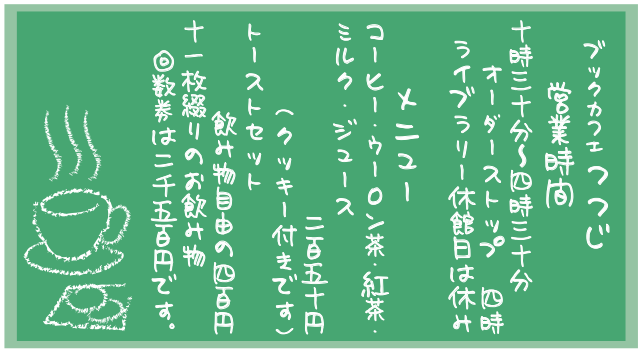
あなたの心に残るおすすめの本を教えてください

このコーナーでは皆様のおすすめの本を募集しています。二百字程度にまとめてFAXかメールでお送りください。採用された方には毎月一回行われる、ことばの繭ホールコンサートの招待券を差し上げます。

Cafeつづく

陽だまりの中のブックカフェつつじ

「あっ、新幹線がきた。」と子どもの声が聞こえる。おばあちゃんとライブラリーへ来た小学校へ上がる前くらいの男の子が、今上田駅へ停まろうとしている電車を見つけて喜んでいる。大きな声を出してはいけないライブラリーだからこそ子どもたちのキラキラした表情がかわいらしい。大きな窓から陽が射し、上田駅が一望できる場所にある〝ブックカフェつつじ〟のひとときです。



上田図書館倶楽部イベントカレンダー

（定員に達していなければ参加可能です。ライブラリーカウンターにてお問い合わせください。）

3月

- 1日(月) 18:30〜　ヨガ教室（仕事帰りにリラックスタイム）2階会議室
- 13日(土) 18:30〜　一人語り芝居　中西八枝「東北のズンムたち」
- 15日(月) 18:30〜　ヨガ教室（仕事帰りにリラックスタイム）2階会議室
- 26日(金) 18:30〜　繭ホール・サロントーク（2ページをご覧ください）ゲスト：一ノ瀬綾氏
- 29日(月) 13:30〜　ネット&カフェ（パソコンの使い方を学び美味しいコーヒーでリラックス）

4月

- 5日(月) 18:30〜　ヨガ教室（仕事帰りにリラックスタイム）2階会議室
- 10日(土) 13:30〜　文学講座・芥川龍之介の世界　2階会議室（受付は3/6から。定員50名）
- 17日(土) 18:30〜　木内貴大&弦楽四重奏　コンサート
- 19日(月) 18:30〜　ヨガ教室（仕事帰りにリラックスタイム）2階会議室
- 26日(月) 13:30〜　ネット&カフェ（パソコンの使い方を学び美味しいコーヒーでリラックス）

雑誌編集のスタッフ募集

図書館倶楽部では只今、地域の文化を発信する雑誌を創刊するための準備をしています。そこで、雑誌を作るために一緒に活動していただける方を募集します。倶楽部事務局までお問い合わせください。（編集・取材・営業など）

編集後記

暖冬といわれていた2010年、こんなに雪が多いとは思ってもみませんでした。大雪の日には読書が一番。ということで、おすすめの本のコーナーを始めてみました。本選びの参考にしてくださいね。

特集は講演会のレポートを中心にお届けしました。相馬正一先生の熱い太宰論や真田幸光氏の楽しくもありハッとさせられる話など、本当に心に残るひとときでした。

これからも、そんな講演会やサロントークを企画していますので、ぜひご参加ください。（児玉）